



南魚沼郡市医師会の近況報告

南魚沼郡市医師会

副会長 黒 岩 巖 志



【新体制】 今年6月から、2期4年務めた米倉研史会長が退任され下記新役員体制となります。会長：黒岩巖志（私）。副会長：外山千也、相澤直孝。理事：井上陽介、富永衛、安部龍一、米倉研史、福田修、小川杉子、生越章。監事：白井崇準、井口英幸。会員75名（A会員12名、B1会員50名、B2会員9名、C会員4名）（2026年4月1日時点）。

【医療機関の動向】 現存機関は、5病院（南魚沼市4、湯沢町1）、14診療所（南魚沼市13、湯沢町1）です。南魚沼市内では2025年3月末に『河内医院』と『荒川診療所』が閉院、さらに2026年3月末に『南魚沼市立城内診療所』が閉院。2024年11月『ゆきぐに大和病院』が無床診療所化し、現在は『大和地域包括医療センター』として外来診療、訪問診療、訪問看護、居宅介護支援を担っています。2025年5月、南魚沼市出身の井口英幸先生が『どんぐりこどもファミリークリニック』を南魚沼市内に開設されました。訪問看護資源に関して、2024年度には人材不足により24時間対応可能な訪問看護ステーションは南魚沼市内に一か所のみとなっていました。同年度に立て続けに3つの24時間対応可能な訪問看護ステーションが立ち上がりました。お陰で、がん終末期患者など医療必要度の高い患者の在宅移行がスムーズになりました。在宅医療提供において、いかに訪問看護の必要度が高いかを痛感しています。

【在宅医療推進センターの活動】 南魚沼市民病院内に設置する南魚沼地域在宅医療推進センターでは、介護支援専門員を兼務している1人の担当者により取組が実施されています。昨年度の事業

内容は、（1）在宅医療実施機関の現状把握のためのヒアリング、（2）医療・介護連携ICTツールの運用・管理、（3）入退院時における連携の円滑化目的に作成された魚沼二次医療圏域入退院連携ガイドの普及促進です。（3）の入退院連携ガイドは、新人教育のツールとしても有用です。昨年11月、久しぶりに『医療・介護連携のための多職種交流会』と称し当センターと当医師会とが主催で飲み会を開催し親睦を深めました。

【男性へのHPVワクチン】 近年、全国の市区町村において独自助成（殆ど無料）による任意接種が広がりつつあります。2025年11月1日時点で東京23区全てを含め計78の市区町村が実施していますが、新潟県内で実施している自治体はありません。尖圭コンジローマ、肛門がん、中咽頭がんの予防だけではなくパートナーへの感染を予防することで子宮頸がん撲滅にも寄与することが期待されます。昨年度の理事会において議題に挙がったので話題提供させていただきました。当医師会としては、自治体および各医療機関の意向を踏まえ対応したいと思っております。

【最後に】 私個人として自治体や教育・保育機関と連携しながら関わっていることとして、中学生対象の喫煙防止講話、市民対象の自殺予防対策集会における内科医としての講話、教育・保育関係者および保護者対象の睡眠やメディアについての講話などがあります。また、複数の園医、学校医、地元企業の産業医を担っております。人材不足が常態化した当地において、近隣の医師会とも連携しながら予防・保健も含めた地域医療に邁進する所存です。